

## 2005年オーストリア旅行記

月日	曜日	宿泊地
2.14		成田発
2.14	月	コペンハーゲン
2.15	火	ウィーン
2.16	水	ウィーン
2.17	木	ザルツブルグ
2.18	金	ザルツブルグ
2.19	土	インスブルック
2.20	日	サン・アントン
2.21	月	サン・アントン
2.22	火	サン・アントン
2.23	水	サン・アントン
2.24	木	サン・アントン
2.25	金	サン・アントン
2.26	土	ウィーン
2.27	日	ウィーン
2.28	月	ウィーン発
3.1	火	帰国

### 2・14

8時15分に家を出る。成田に着くと12:45のSK便は、16:00に変更とのことで、空港食堂の2000円券を二枚くれた。中華で豪華な昼食をとり、UCラウンジでビールを飲みながら時間をつぶす。出国手続きをしてロビーに入ると、呼び出しがあり、ゲートに行くと、エコノミーが満席になったので、エコノミー・プラスの席に変えてくれた。16:00出発、11時間半のフライト。

コペンハーゲンに着いたのは7:55で、ウィーン行きには間に合わず、乗り継ぎカウンターで、明日のフライト搭乗券とホテルまでのタクシー・クーポンをもらって、タクシーに乗る。ラディソン・ホテル・スカンディナヴィアにチェックイン、ツインの部屋に落ち着く。一風呂浴びてから、ママズ&パパズでビュッフェ。ビール、ワインも付くが、料理はシンプル。乗り継ぎできなかった乗客用のサービスで、日本人が多かった。

部屋から、ウィーンのホテル・メルキュール・ホテルに電話で明日行く旨を伝える。モーニングコールを頼んで就寝。

### 2・15

5:30のコールより早く目がさめたが、そのままベッドで休んでいると、コールは機会的な音だけ。荷物をまとめてチェックアウトし、早立ち者向けのコーヒーとクロワッサンで朝食。タクシーで空港へ。出国検査後、出発ロビーの免税店をのぞいたが、ファインフード店はまだ開いていないので、キャビアは買えず。

7:40ウィーン行き出発。1時間40分でウィーン到着。機内では水とコーヒーサービスのみで、他は有料。空港は広大だが、建物はさほど立派ではない。入国検査もなく荷物をもって外へ出る。リムジンバスで国鉄西駅へ(@6ユーロ)。都心への高速道路の周辺には石油化学工場が並ん

でいる。片道2車線で北京の空港高速より貧弱。南駅経由で西駅へ着く。街並みはあまりきれいな印象はない。新旧雑然といった感じ。

駅の西隣りのホテル・メルキュール・ベストバケーションホフに投宿。古風なこじんまりしたホテル。食堂でコーヒーとクロワッサンをもらってきて2度目の朝食。チョコレート、胡桃餡、ジャムなど入った甘いクロワッサン。駅に行き、ATMで300E引き出し、自動販売機で8日券を購入(24E)、フォアタイルスカルテの申込書をもらう。

地下鉄・路面電車でオペラ座前の切符売り場へ行き、27日のアイダのボックス券を買う(@157)。こんな服装でいいかと聞いてから購入した。リングと呼ばれる環状電車で市内見物。市議会議事堂広場で下車、氷祭りで臨時スケートリンクがあり、皆が楽しんでいる。議事堂は驚くほど立派なゴシック建築だ。隣の国会議事堂は修理工事中。こっちも立派。リングを回ってオペラ座へ戻り、ザッハ・ホテルで本家ザッハ・トルテとチーズケーキを賞味。チョコレートケーキのホイップクリーム添えだが、杏ジャムの酸味が効いていて美味しい。コーヒーともでチップ込み16Eを払う。

リングを戻って、博物館前で下車。同じ形の、自然史博物館と美術史博物館が、マリア・テレジア像をはさんで建っている。美術史博物館(@シニア7.5)へ入ると、大理石をふんだんに使い、凝ったコテ細工と壁画で飾られた内装に驚かされる。エジプト室は、ミイラの石棺、マスク、副葬品の見事なコレクション。大英博物館より良質な感じだ。ヨーロッパの博物館を見るとき、いつも、どうやって手に入れたかのかが気になる。アジア支配の戦利品、エジプトの人達はどうか感じるのか。

絵画室は、レンブラントの特別展のほか、古典画のコレクション。レンブラントは点数がすごかった。もともと所有品は多いところに、借入品も加えての展示。フェルメール、ラッファエロが1点、カラバジオが2点、ブリューゲルは沢山ある。古典画に集中しているので、見やすい。展示室には長いすが置いてありゆっくり休みながら鑑賞できる。有名なクリムトの壁画は、意外に小さなもので、見つけにくかった。絵はがきは25枚で割引、18E(@は0.9)。

26日から泊まるホテルの位置を、総合博物館の建物の裏通りで確認してから、地下鉄でシュテファン聖堂へ行き、巨大シュニツェルの店、フィグルミューラーを探す。本屋に聞いて、細い路地の店に入る。直径30cm近い巨大なシュニツェル、子牛のレバー炒め、レスティとホイリゲを堪能(チップ込み34E)。一人では食べきれない量で、隣の二人連れもサラダとシェアしていた。ホイリゲは軽い。

近くのスーパーを覗くと、日本より安い感じのものが多い。ウイナーソーセージは売っていない。魚はマスと鮭だけ。水と板チョコ(1.89E)を買って地下鉄で帰宅。

## 2・16

4:00目覚めて日記を書く。外は雪が降り続けている。朝食はサーモンから生ハムまで揃って豪華。フォアタイルスカルテ申請用紙に書きこみ写真を張って駅へ。簡単に受け付けてくれて、半額割引のカード(本物は後日郵送してくれる)をくれた。シニア用で@26.9Eだからお得。

地下鉄と路面電車でベルベデーレ宮殿に。毛皮の似合う美人が乗っている。この国は美人が目立つ。雪の庭園は、あまり風情がない。二つの宮殿は美術館になっている。オーストリア・ギャラリーを見る。クリムトの「接吻」やエゴン・シーレの「死者と婦人」が目玉。ムンク、ココシュカ、ルノアールなど、19・20世紀中心のコレクション。足がくたびれたのでカフェでケーキとコーヒー。クリームトルテは大きくて2人分ある。それほど甘過ぎず美味しい。

電車で王宮へ。どこから入るのが分からず、うろろすると教会からパイプオルガンの音が聞こえたので入る。王宮のアウグスティーナ教会で、スタンドグラスなど無く、質素な感じ。次に見つけたのは国立図書館。王宮の建物の一部だけあって立派。入館料をとるので中には入らなかった。

ようやく王宮見学入り口を見つけて入る。シシイ博物館は王宮の部屋を見ながらエリザベート王妃の一生をたどる展示。さすが美人の誉れ高い王妃で、立像や人物画は見応えがある。館内では補修作業中の部屋があり、金箔張りを見学。若い職人が器用に仕事をこなしていた。

次が銀器コレクション。日本語説明器を借りて回る。調理用銅器、銀器、金めっきした銀器、ガラス器、陶器など圧倒的な質量。伊万里の上等なものが数多く展示されている。ハップスブルグ家の富裕ぶりがよく分かる。

地下鉄で西駅に戻り、スーパーで水を買おうとしたらきのうの3倍の値段。安いビールを2本買って(@0.9)、パン屋でチーズサンドを仕入れて帰宅。4時前だが、ビールとパンで昼食、一風呂浴びて昼寝。

8時にホテルのレストランで夕食。スープ(3.7E)、グーラッシュ(11.4E)とチキン(11.9E)、白ワイン(19E)。スープはジャガイモ中心のとりみのある家庭料理風。グーラッシュは塩辛過ぎ。ニョッキ添えて、形の整わないニョッキの製法が不思議。チキンはパセリバター詰めフライで、ジャガイモサラダ添え。このサラダ、おろしリンゴの入ったドレッシングで和えたもので珍しかった。ワインはヨハネスブルグのトロッケンで美味。

## 2・17

朝食をたっぷり食べてから西駅に。インスブルックまでの切符を半額で購入。1ヶ月通用だったので、サンアントンまで買ってよかった。9:34のザルツブルグ行きに乗る。雪のなかの農牧地帯は単調な眺め。検札のおじいさんが来て、切符とカードを丹念にチェックして言うには、カードは明日から有効だと。なるほどそう書いてある。カード発行者が間違えたのを、切符販売者が気づかなかったようだ。おじいさんは、今日、また乗るなら支払わねばならないと言う。ザルツブルグまでは大目に見てくれた。

12:50ザルツブルグ到着。インフォで聞くと少し遠いのでタクシーでホテル・メルキュールへ。こじんまりしたホテル。歩いて中心街へ。道幅は狭く、入り組んだ街路が、古さを感じさせる。人形劇場に行くと、今は何もやっていない。コーヒーを飲んでから、モーツアルトの家を見物(@シニア5E)。日本語オーディオでゆっくり部屋をまわる。古いチェンバロやオルガンでの作品演奏もあって面白い。家族の紹介、演奏旅行の経路の説明のあと、ビデオで半生記が上演されて終わり。後半のあのみじめな話はなぜか入っていない。出てしまったが後編があったのかもしれない。

橋を渡ると、ヨーロッパ中世以来の街並みで、建物の中を細い路地が通り、広場につながる。安物から高級品までショウウィンドウが綺麗だ。冬物はバーゲンしている。ブーツなど安い。

ケーブルカーで城塞へ登る。日本語オーディオ付きのガイドツアーに参加。大司教領で、歴代の領主が城をだんだん堅牢に構築していく模型が面白い。最後の増築は対トルコ防衛工事だったがトルコの侵略は無く、負けたのはナポレオンだけで、無血開城だった。牢獄を通過して塔に登ると街が一望できる。大司教のレジデンスに教会が直下、川向の丘には城壁のなかに夏の居城、裏側には薬草園と未張り番の小屋、遠くに領主の別邸。城塞内は結構広い。小教会の鐘が5時を告げている。

ケーブルカーで下りてモーツアルトの生家を探すが見つからない。広場では露天の野菜・果物屋が店じまい中。タバコ屋で聞くと、通りすぎたようだ。戻ると、大きな建物に生家と書いてあった。小さな建物をイメージしていたので見つけられなかったようだ。中には入らず、向かいの広場のかどの2階建ての小店、ツーム・オイレンシュピーゲルで夕食。魚スープ、マスのフライ、ビーフ・ストロガノフに白ハウスワイン(500ml)。名物スープは、魚・エビ・野菜のごった煮ポタージュで塩辛すぎ。いくら塩の町でもこれではみんな高血圧になる。マスのフライはムニエルで、カブとキャベツの入った白いソースの上に乗っている。ストロガノフは大ざり牛肉でホイップクリーム掛け、ニョッキ添え。肉の脂身が少なく味が出ていない。支払いはチップ共合計、61E。天井が板張りで雰囲気の良いにじんまりしたレストランだが、味はいまいち。

歩いてホテルに戻る。途中のスーパーはもう閉まっているので、ワインは買えず。早寝。

## 2・18

2時に目が覚めて日記を書く。さらに、原稿も書き始める。再眠して、7:00朝食。このホテルも、豪華なサービス。オレンジのスクイーズもあり、ケーキも数種類出ている。ゆっくり食べて、8:50駅に歩く。9:20の電車でハラインへ。バスに乗り継いで、Bad Duerrenbergの塩鉱山へ行く。11:00からのツアーを待つあいだ、そばのケルト集落を見る。塩を発見して掘っていたケルト人の住居・家畜小屋・作業場などが復元してある。ログハウスで薫ぶき。雪が深く、塩坑道入り口まででは行かなかった。

11:00近く、イタリアの中学生のグループが到着して先行したので、40分ほど待たされた。白い安全服を着て、一列ベンチのトロッコにまたがって坑道を数百メートル入る。はじめはコンクリート補強だがその先は坑木と厚板で支えた坑道。下車して電灯が少なく薄暗い坑道を歩く。ところどころに塩鉱脈が露出している。白・黒・うす赤まじりの鉱脈だ。聖人像を置いたくぼみもある。かなり広いホールでビデオ説明。海水に溶けた塩が、内陸に取り残された海が消滅するときに沈澱したのが岩塩だと知る。鉄鉱石が生物の営みと関係するような具合ではないが、大陸移動の歴史が、岩塩を作ったわけだ。ビデオは、ザルツブルグの大司教と従僕の対話を通して、塩がいかに豊かな財源であったかを分からせる仕立てになっている。ドイツ語に英仏のスーパー入り。案内人の説明は独・英でしてくれる。中国人のグループがいて、ガイドが中国語に訳して説明している。顔立ちからは台湾系だろう。

さらに下の坑道へ降りる。木製の滑り台で、2本の木道に2・3人ずつまたがって滑る。かなりの長さなので、ちょっとしたスリルが味わえる。さらに歩くと国境。ドイツ領に入って歩きつづける。古い掘削機械も置いてある。岩盤に入り込んでいる塩鉱脈を掘るので、かなり硬い岩を掘る作業のようだ。

ここでもビデオが写され、大司教が年間36000トンが貨幣に変わると誇っていた。掘りだした岩塩は、一度溶かして煮詰めて精製する。大きな塩釜で作業する絵が写され、あたりの森が伐採され尽くしたと説明がある。日本の塩田地域と似たような環境破壊が、岩塩地域でもあったとは面白い。精製塩は1mほどの角錐状に成型されて出荷された。

次は地底湖の旅。かなり広い塩水湖を木製はしけで渡る。照明と音響効果で地底船行気分を高めてくれる。魚はいないとのこと。

さらに坑道を進み、落盤事故で死んだ人骨の発掘現場などを過ぎて、3度目のビデオ。対ドイツ戦争が塩をめぐる戦われ、敗れた大司教が、ザルツブルグ城塞に幽閉されて死を迎えるまでの話。もう一度、木の滑り台で降りる。膝で木を挟んでブレーキをかけるが、スピードが遅すぎると降り場の終点に届かない。オーストリア領に戻り、エスカレーターで昇って出発地点に。パネ

ル説明で、現在は水を地中の塩鉱脈に注入して溶かして採集し、精製する方式で生産が行われているのが分かった。また、トロッコにまたがって坑道口に戻る。約1時間の面白いツアーだった。

売店で岩塩を買っていたらバスに乗り遅れた。1時間待つので、2停留所歩く。ケルト博物館の近くで降りしてくれるよう運転手に頼んでおいたら、停留所でないところで降りしてくれた。言われた方向に歩くが見つからず、インフォメーションで聞くと、川向とのこと。

昨年未まで改装工事をしていた新装の博物館はなかなか立派。この地方のケルト遺跡からの出土品の展示と塩鉱山関係の展示が中心。ケルト遺物も美的に優れたものがある。動物や人型の細工のついた青銅器や大型の陶器壺など見応えがある。帰りに絵はがきを買おうと、鉱山にも行くといいというから、もう行ってきたと答えてチケットを見せると、それならこの入館料(シニア@3E)は含まれていると返金してくれた。

駅まで歩く。旧市街は道が狭くくねくねしている中世都市特有の造りで趣がある。地図にbahnとある方に歩いたが駅は見当たらず、子供に聞くと知らない。婦人が教えてくれたのはかなり戻る方向だった。地図のbahnは、bahnhofではなかったようだ。恵子にしかられながら駅にたどり着く。電車は数が多いので、遅昼がわりにお菓子でも食べようと町へ戻るが、新市街には菓子屋が無いのであきらめて電車に乗る。この日帰りツアー、料金はシニア@19.1Eと安い。

中央駅前のショッピングセンターで、夕食の買い物をして帰室。パルマの生ハム、ローストチキン、マカロニサラダ、キャビア、パン、ワイン、食後はアイスクリームとモーツアルトクレープ。このスタイルは、くつろげるし安いので、時には良い。

## 2・19

朝食をたっぷり食べて休んでから駅に。9:52の列車でインスブルクへ向かう。多少の高低がある路線を走る。このあたりの民家は、木造3階建てで、3階と2階の窓にベランダを張りだすのが基本形だ。3階は屋根裏部屋になるのだろう。ノンストップで2時間足らずで到着、インフォでホテルの位置を聞くと徒歩15分とのでタクシーに乗る。珍しくトヨタのアベンスだ。ドイツ車が圧倒的ななかで意外だった。あまり英語がうまくない運転手で選択の理由は分からなかったが、良い車だと言う。ホテルは旧市街の一角で、窓からイン河が見える。

一休みしてまず黄金の屋根があるマキシミアン博物館の前を歩いてインフォメーションに行く。王宮に近い旧市街の中心部で、実に綺麗な建物が並んでいる。色合も美しいが、窓が出窓になっていたり、化粧破風になっていたり、造形的にもすごい。吊るし看板も良い。ここの通りは、建物に組み込まれて通路がある方式で、ベルンなどと同じ造り。

インフォでインスブルク・カード(@21E)を購入、おばさんに各地への行き方を教わる。スキー場に行くことにして、路面電車に乗るが、方向違いで乗り換え、ケーブルカー乗り場へ。ケーブルカーでイン河を渡って昇り、途中、アルプス動物園入り口で停車、さらに昇る。ロープウェイに乗り換えて、1900mまで昇り、もう一本ロープに乗って、2300mのハーフェレカー峰に。ロープは、スキーヤーとボーダーで混んでいるが、ゲレンデは空いている。最上部のスロープは難コース。リフトは2本あるだけの小さなスキー場だ。上からは街が一望でき、ジャンプ台も見える。寒いのでそうそうに下山。

街を巡回する小型観光バスに乗りそこなったので、路面電車ですジャンプ台近くまで行き、そのまま旧市街へ戻る。カフェ・ムンディングで、ハウストルテとマスカルポーネトルテ、コーヒーを賞味。トルテは、凝りすぎの感じだが美味しい(チップ共で13E)。

デパートに行くともう閉店。みやげ物屋を除く小売店は、スーパーも土曜日は5時で店じまいする。美しい建物を鑑賞し、ウインドウ・ショッピングをしながら帰室。人出が少ない感じで、観光客も日本人は見かけず、中国系の団体が目立つ。

風呂に入って昼寝。8:00、夕食に出る。最古の建物の中のレストランへ行くが休みで、ゴオルデナー・アドラーは満席、王宮脇のシュティフツ・ケラーに入る。猪のブドー酒煮、野菜のグラタンに赤ワイン2種、アップルパイ(36E)。料理は塩辛すぎ。猪のブラーテンには、クランベリーソースとブドーが添えてある。アップルパイは、バニラソース掛けを注文。恵子の予言どおり、薄いカスタークリーム掛けで、あまり良くない。

アドラー・ホテルの有名宿泊者名簿石板をながめ、旧市街の夜景を楽しみながら帰室。

## 2・20

朝食は少し貧弱。チェックアウトして荷物を預けて出かける。ドーム教会はロココ風の内装、クラナッハの絵が正面の祭壇に埋め込まれるように飾られている。

王宮は、マリア・テレジアが改装したバロック風の宮殿。大きなホール、数多くの部屋、廊下は無いから、部屋を通りぬけることになるのか？

日本の短大の修学旅行らしき一団がいる。若い女性に囲まれて、若い先生も大変だろう。

小型のサイトシーイング・バスで、アンブラス城へ。鎧・槍・刀などのコレクション、美術品のコレクションを見る。主城では、ホールや風呂、教会。ジャンプ台を眺めながら、マリア・テレジア通りに戻る。

チロル博物館に行く。民具・大工道具・糸車・織機・衣装・ミニハウス・実物大のいろいろの部屋など、見事な展示だ。1m前後の長いカンナが珍しい。あれなら平面削りがうまく行くだらう。同じ建物の別室に、クリスマスのパノラマが各種ある。宮廷教会に入ると、マキシミアン大帝の棺と等身大の家臣・婦人のブロンズ像がある。棺は空っぽとのこと。開いていたハム店で、チロルの生ハムを購入(5パック、60E)。

ホテルで荷物をとって駅へ。サンアントンまでの切符と帰りのウイーンまでの切符を買う。カフェでコーヒーとサンドイッチの昼食(10E)。2:39のバーゼル行き列車に乗る。3:49、サンアントン着、タクシーでホテル・ファーナーへ(8E)。チェックインして一休みしてから、町へ。スキーセットを借りて置き場に預ける(5日間、330E)。スキーパス(286E)を買って、ATMで200Eおろす。昇り道に戻るが、かなりの距離。

7:00夕食。トマトスープとサラダはセルフサービス。ナッツ入りのコンソメ・ゼリーと鶏胸肉のグリル、ティラミスは持ってきてくれる。白ワイン1/2、赤ワイン1/4。料理がくるまでに時間がかかり、眠くなる。今日のメニューを印刷して、明日の天気予報を入れている。

ネットで元にメール。すこし勝手が違うマシンで、15分0.5E。ホットメールの日本語サイトに行くので、読めない。見当を付けながらボタンをクリックしたから、うまく送信できたか分からない。

## 2・21

7:00朝食。普通のメニューだが、野菜が少ない。8:30、出発。スキー靴を履き、スキーを抱えて歩き出すとすぐ息が切れる。加齢のせい、体重のせい？恵子は飲みすぎだと言う。ともかく、ユングフラウいらい2年ぶりだから変化も起こるわけだ。

足ならしのためリフトで昇って緩くて長いコースを滑ってみる。雪は少し重い感じで、曇りで凹凸がはっきりしなく、二人とも転ぶ。起き上がるときに息切れするのだからいやになる。下からGampen 行きのキャビンに乗り、リフトでKapall へ。広いゲレンデの easy コースを滑る。雪質は

最高に良いが、スキーヤーが多すぎて、のんびりできない。ボーダーよりもスキーヤーが多く、みなさん、さすがに上手だ。けっこう飛ばし屋がいるので、危ない感じになる。これでは、日本のスキー場と変わらない。曇りで展望も無く、雄大さも感じられないから、いささか期待はずれ。

少し早めにロープウエーの途中にあるレストランで昼食。水、スープ、シュニッツェルで18.2E。具沢山の野菜スープにじゃがいもを敷いた豚肉のステーキ。水小ピンで2.2Eは高いが、料理は良い。出るときにはお客で一杯になった。

Galzig へのロープウエーに乗る。次の Galluga Grat へのロープウエーは敬遠して、St.Christoph 方向に滑る。人が少ないことを期待したが、こっちも人ごみ。リフトで Galzig へ戻り、広いゲレンデを東に降りる。Osthang のリフトで戻る。このピステは幅が広くて滑りやすい。Galzig のレストランで休憩、コーヒーとファンタオレンジ(5.3E)。セルフサービス方式の広い食堂だ。

St.Christoph へ降りて、午前とおなじリフトで Galzig に戻り、9・4・1と easy コースを滑って麓に降りる。

スキー靴を履きかえると足が楽になる感じを久しぶりに味わう。街を歩いてスーパーを見つけ、ワイン・ビール・ポテトチップ・キャンディとチロル風生ハム2種を購入(20.21E)。ホテルとレストラン、スポーツ用品店とみやげ物店、銀行などが並ぶメインストリートにスキー客があふれている。いささか雑多な印象の街で、グリンデルワルトのような趣はない。

重い足を引きずりながらホテルに戻る。ビールと生ハムで一息入れる。Kareeschinken のほうが燻製が軽いようで口に合う。風呂に入ってひと眠り。

7:00 夕食。クリームスープは美味しいがやはり塩辛い。サラダバーは昨日と同じ。メインは、フォンデュ・シノワーズ。コンソメスープをアルコールランプを熱しながら、薄切り牛肉を煮て、4種類のソースで食べる。マダム・ファーナーに、中国にはこんな料理は無いというと、フレンチだと言う。しゃぶしゃぶから派生したフランス料理だ。脂肪のない赤身肉で、肉自体の味ではとても日本人に向かないが、こうすればまああの味になる。付け合わせはフレンチ・フライで、後ろの席のアメリカ人は喜んでお代わりを頼んでいた。デザートはアイスクリーム。部屋でワインを飲もうと、食事は水で済ませたが、眠くてそのままベッドへ。

## 2・22

アミノバイタルを飲み、エアサロンパスで養生したせいか、起きてても筋肉痛はない。朝食後、ネットをチェックすると、元からの返事が入っていた。明日から中国で、メールは使わないとのこと。

8:45 出発。Lech に向かう。無料バスが分からないので、ポスト・バスで片道7.2E。雪崩防止屋根のついた山際の道を守る。St.Christoph、Stuben、Zuer を経て Lech まで約40分。

リフトを乗り継いで Kriegerhorn へ。2番目のリフトのシートが暖かいのでびっくり。さすが高級リゾートだけのことはあると感心。少し降りて Hochlicht へのリフト、これも暖かい。ゲレンデが広く、人も少なめなので、快適な滑りを楽しめる。Juppenspitze の下までの Rotschroten リフト、これは暖かくない。降りると、終点がリフトの Weibermahd リフトに乗る。降りてロープウエー終点のあたりで昼食。紅茶、スープ、スパゲッティで22E。

リフトで昇り、Hasensprung リフトに乗り継ぐ。ここは単調なコース。もう一度 Rotschroten リフトに乗ってから、下まで降る。もう一度、Kriegerhorn まで上がって、ゆっくり降りる。空いていて良いゲレンデだが、コースが短く、スイス・アルプスのような長いルートを楽しむは無い。3時を回ったのでバスで帰る。無料バスが無いので、また、ポスト・バス。これなら往復券のほうが得だった。おまけに、恵子がバスで小銭入れを落としたから、高くついた。

ホテルで聞くと、無料バスは Zuers までしかないとのこと。やはり、情報は大切だ。歩いていると、小石を積んだ小型トラックが、道に小石を撒きながら走っている。滑り止めに小さな角張った小石を撒くのだ。帰室して、ビールと生ハムで一杯。昼寝。

夕食は、コーン・ポタージュ、ローストビーフのマリネ、サラダ、子牛のグーラッシュ、レモン・ケーキ。ポタージュは塩辛すぎ。部屋に戻って、ベランダの雪でワインを冷やす。オーストリア、Kremstal の Kabinett クラスの Riesling。さっぱりしてフルーティな飲み口が良い。6.4E は手ごるな値段だ。

## 2・23

朝食後、9:00 出発。Zuers へ満員のバスに立って乗る。Lech からロープウエー経由で Zuers に行くコースがあるが、1回、Tバーリフトに乗る必要があり、恵子不慣れのため、Zuers で下車。東斜面を滑ることにして、短いリフトから、2本続きのリフトで Hexenboden へ昇る。まわりの山々が美しい。青のイーザーコースは、斜面をトラバースするように付いているので、直滑降しても昇りきれない個所があり、歩くことになる。もう一度、Hexenboden リフトに乗り、長い下りを楽しむが、また一部は歩き。さらに下りて食事をしようとしたが、レストランが無く、そのまま、西側斜面に歩道橋を渡って移る。リフトに乗って、降りたところで昼食。

セルフ方式で、クネーデル・スープとソーセージに水(14E)。パンとベーコンを丸めた大きな団子がひとつ入ったスープはボリュームたっぷり。ソーセージは沢山フレンチフライが付いている。青空にうす雲がかかり、きらきらと雪片が舞う。きれいな雪印だ。

すこし下りて、Muggengrat ヘリフトで上がる。このあたりの斜面は岩や樹木が無く、比較的なだらかなので、新雪を滑るシュプールのあとがいたるところに模様のように付いている。ここでも一部歩きの長い下り。ところが、最後が、次のコースに接続していないので、小雪原を歩く。おまけに最後はちょっとした昇りで、横歩きでひと苦労。

Madloch リフトは赤コースだけなので、恵子は敬遠して下で待つ。一人で滑り始めると、新雪に入り込んでしまい、そのまま斜滑降するが、転倒。かなり下のコースまで、無様にボーゲンで下りる。リフト沿いで、いささか恥ずかしいが、新雪にシュプールを描く技は身に付けていないから仕方が無い。

歩き疲れたし、元のフライトの無事も確かめたかったので早上がりにする。ポストバス乗り場できちんと待たされる間に青色の地元バスが頻繁に通る。バスを降りてからインフォメーションで尋ねると、Lech と St.Christoph はずれの Alpe Rauz の間に往復バスがあり、スキーパスが有効とのことだった。この情報も早めに仕入れておくべきだった。宿の主人の情報も不正確なことが分かった。

帰室、CNN ニュースを見るが、飛行機事故のニュースは無いので安心。ビールを飲んで昼寝。

夕食は、クリームスープ、アーベルグ生ハム、サラダ、白身魚のロール、プリン。生ハムはこの土地のものらしく美味しい。魚は Seezungen と書いてあるが不明。舌平目か？

戻ってから、白ワインの残りを楽しむ。冷やしておいたバルコニーからは、オリオンが美しい。今日のメニューに書いてある天気予報では明日は薄曇りとのことだが、今夜は晴れだ。

## 2・24

朝食後、早めに出かける。9:15、Galzig ロープウエーに乗り、少し下ってリフトに乗って昇り、さらに長く下ってまたリフト。それから長い下りを滑り、Alpe Rauz でスキーを脱いでバスを待つ。



10:30になっていたから、山越えに1時間15分かかったわけだ。ここと Lech 間の青い地方バスに乗って、終点まで無料。

Lech ではまた西側斜面を滑ることにして、リフト2本を乗り継いで Kriegerhorn に昇る。晴天で銀嶺が美しい。下りて、Hochlicht へのリフトに乗る。先日よりも人出が多い感じだ。35ルートから62ルートに出て滑ると、Tバーがある。恵子を待たせて見に行くと、そのまま下りられることが分かったので、Tバーで戻り、滑り下りる。

途中のホテル・レストランのテラスで昼食。水、アールベルグ風大麦のスープ、キノコのリゾット。スープは相変わらず塩辛い。具沢山で、パンも3つ付いてきた。リゾットは、米が太って大きい粒で、変わった食感だ。勘定はチップ共15Eで、水はサービスだった。昔風の風格あるホテル・レストランなのに、スキー場としては安い。レストランの中から、ぞろぞろ子供達が出てきた。5歳前後で、7人から10人が組になってスキー練習をはじめた。ストックを持たせないで、ボーゲンから教えている。こんな歳から仕込まれるのだから、みんな上手なわけだ。

下まで降りてから一番北にある初めてのリフトに乗る。先日昼食をとったレストラン脇を滑って、リフト。もう一本リフトで、Juppenspitze へ。また、Kriegerhorn、Hochlicht を滑って、34ルートで教会脇まで下りる。無料バスで Alpe Rauz に戻り、ポストバスに乗り換えて St. Anton に帰る。バス代は@2.3E と安上がり。

絵はがきを買って帰室。バルコニーの雪で冷えた白ワインを開けてのどを潤す。カビネットクラスのシャルドネで、なかなか美味しい。半分は食後に回して、夕食。カボチャのスープ、モツアレラとトマトのカナッペ、サラダ、豚ひれ肉のソテー、ムース。ひれ肉は丸ごと10cmくらいのものをソテーして斜めに切ったもので、始めて見る料理法だ。大味なので、サラダ用のオリーブ油で味付けする。

食後は、部屋で残りの白ワインを楽しむ。

## 2・25

恵子が疲労で午前中は休養することになったので、ひとりで、Rendl を滑ることにする。広場から、Rendl Direct というロープで引っ張る装置と昇りの動く歩道を組み合わせた移動手段で接近し、最後は道路の下をくぐるトンネルを滑り下りてロープウエーに乗る。6人乗りのキャビンで、10数分かかる長い空中移動で、St. Anton のゲレンデは見えなくなるところで降りる。ピステ以外の斜面には、シュプールが描かれたり、大小のコブが作られていて、全山がスキー・ゲレンデと言う感じ。岩の露出と樹木がないので、好きな所を滑れるわけだ。このあたりのスキー場は、ほぼ同じようで、日本のように、オフピステはほとんど滑れないというのとは大いに異なる。われわれには、猫に小判だが、こころが、チロルスキーの魅力なのだろう。

赤コースと一部黒コースを滑るが、雪質が良いし、ピステの幅が広いので難しくはない。キャビンの下をくぐるようなリフトなどを6・7本滑ってから、ホット・チョコレートで一休み。下りにかかる時間が分からないので、早めに降りることにする。長い赤コースを降りて、ロープウエー乗り場まで。無料バスで広場に戻る。

恵子との約束時間の1時半には間があるので、Gampen と Kapall のリフトで赤コースを数本滑べる。1時過ぎにロープウエーまで降りると、もう恵子が待っている。宿の女主人が車で外出するところだったので、乗せてきてもらったとのこと。

Galzig から Vallugagratt へとロープウエーを乗り継ぐ。山頂レストランで昼食。スープ、ソーセージ、コーヒー、紅茶で16E。食後、6人乗りの小型ロープウエーで Valluga 山頂へ行く。このあたりの最高峰(2811m)からの景色は絶品。展望台からはチロルの山波が360度広がる。有名な

峰があるわけではなさそうだが、峰の形状はさまざま面白い。烏より小さい黒い鳥が雪の斜面に沢山とまっている。ここからスキーで滑る冒険者もいて、切り立った斜面を、飛び降りるように下っている。女性も平気で降りていくからすごい。

Vallugagratt に戻り、スキーを抱えて Galzig までのロープに乗る。下で待ち合わせて滑りたかったが、Galzig のロープ降り場までのルートが複雑なので、たどり着ける自信が無かったから、ロープで同行することにした。Osthang のリフトまで滑って乗り、帰路につく。皆さん帰り道で、すごい混雑。ゆっくり降りて、今回のチロル・スキー終了。

スキーを返すと40E 返金してくれた。保証金をとっていただけ。スキーパスも返すと@4E の返金。街を下ってスーパーで、Karreeshinken を1パックとビールを購入。みやげ物屋でピンバッジをひとつ仕入れたが5.5E で、これまで買った各地のバッジのなかでは最高に高値。エーデルワイスをあしらった上等なバッジだ。地元食品の店では、各種のハム・ソーセージを売っている。パウンドケーキのようなものを巻き込んだパンを1片購入、2.5E。この街には、みやげ物店が少ない。サンアントン饅頭などは売っていない。日本のスキー場のような雰囲気はない。

部屋でビールを飲んで一休みしてから夕食。オーストリアにはロゼワインの良いのがあると旅行書に書いてあるので聞いたが、ハウスワインには無いとのことで、白ワインを頼む。ボルシチ、ナスとキノコのクリームソース煮、サラダ、ラムステーキ、アップルケーキ。ボルシチは、ビーツ、赤キャベツなどをあっさり煮たコンソメスープだった。

支払いを済ませて、明日のタクシーを頼む。恵子が、荷物をパック。いつものことだが、パッキングは恵子まかせ。

## 2・26

急いで朝食、タクシーで駅に。8:12のウィーン行きに乗る。雪の農牧地が続き、ブリューゲルの冬の狩人のような村と森が過ぎていく。ザルツグルグで下車、ロッカーに荷物を入れて、インフォでキッチンウエアの店を聞くと、前に見た店を紹介してくれた。旧市街の近くなので歩いていく。トイレに行きたくなったので、ピザ店で昼食。ビール、コーヒー、ピザで12E。

キッチンウエアの店に行くが、1時で閉店。ウィンドウを覗くが、生ハムスライサーは出ていない。昼食を後回しにすれば良かったが、後の祭り。駅方向に戻る。C&A の雑貨店には、ナイフしかない。駅前のショッピングセンターで、モーツアルト・クーゲルを購入。スライサー欲しさに下車した甲斐が無かった。

15:10のウィーン行きに乗る。雪は少なくなり、土が顔を見せているところもある。到着20分くらい前から、郊外住宅地らしい。18:30、西駅下車、U3でFolkstheater、次に#49に2駅乗って降りて歩く。Viennart Hotel にチェックイン。

Esterhazykeller に向かってU3でHerrengasse に。店はすぐ見つかった。階段を降りると、まさにケラーで、混んでいる。空き席を見つけて座るが、大人数席なので、空いた4人席に移る。天井は、レンガのアーチで、もとのワイン倉庫跡とのこと。ビール、白ワイン2種を頼んで、つまみを買って行く。売店でひき肉団子のフライ、焼いた豚バラ、モzzarellaチーズのハム巻き、パンで13E。モzzarellaのシンケン巻きはオリーブオイル漬けで美味しい。赤ワインを1つ追加して堪能する。ワイン類は、11E。安くて美味しい店だ。日本人客もいて、バイオリンとアコーディオンの楽師に日本歌謡を3曲弾いてもらっていた。一人でビールを楽しむ老人や地もとの仲間たちが気軽に飲んでいる雰囲気の良い店。ワインは昔の城にちなんだ店名から、シュロスワインの白が名物で、美味しい。バラの香りがするという

U3で戻る。

## 2・27

朝食は普通だが、コーヒーが抜群に美味しい。雪が降っているので、ウイーンの森に出かけても仕方なからうと、ドナウ河を見に行くことにして、リングで Schottenring まで行き、#31の路面電車に乗り換える。フリードリッヒ・エンゲルス広場というところを過ぎると、ドナウ河。新ドナウ河と2本の流れの中間で下車。かなり川幅の広い河で、2隻の大型遊覧船が並んで係留されている。固定されているようだから、この季節はレストランにでもなっているのかもしれない。雪は止んだが風が冷たく吹きつける中を、ドナウ河を歩いて渡る。ここには、低いが堤防が築かれている。日曜日の河川敷ではサッカーをする子供達やジョギングの若者が見える。遠くに、ウイーンの森が広がっている。

#31で戻って、U4で Karlsplatz へ。市博物館を見学。ケネディ特別展をしていたが、日曜は無料開放の通常展だけを見る。出土品や砂岩の宗教彫刻、武具が陳列してある。ウイーンが、ローマ時代のローマ軍団駐屯地にはじまり、次第に城郭都市として拡大し、城壁と堀に囲まれた中世都市に成長する過程が、模型で示されている。ほぼ今のリングの位置に城塞があったようだ。モーツァルトコーナーでは、壁の楽譜を指でなぞるとヘッドホンからピアノ音が聞こえてくるなど、面白い仕掛けがある。富裕な市民の居室をそっくり再現した部屋、ウイーンにかかわる絵画。3階には、博物館が所有しているクリムト、エゴン・シーレ、ココシュカなどの作品が展示されていて、この博物館の実力を誇示している。外に出るとカールス教会の堂々とした建物が雪に映えている。

U4とU3を乗り継いで Herrengasse へ。デーメルを探すと、Nordsee が目に入ったので魚フライのサンドイッチ2種と水を買う。デーメルでは、ザッハトルテ、クランベリートルテにコーヒー。ザッハトルテは、ザッハの方が美味しい。本家争いをしているらしいが、クランベリートルテの出来もさほどではなく、デーメルの方が格下だ。店の前で、ホームレスを自称する青年からお金をねだられた。断ったが、今度の旅で物乞いを見たのはこれが初めてだ。

王宮を通りぬけてリングでオペラ座の次の駅へ。インペリアル・ホテルのカフェで、インペリアル・トルテを買う。これでウイーン3大トルテが食べ比べられる。リングに乗ってホテルに戻り、サンドイッチで昼食、一休み。

3時過ぎ、恵子はスカート、小生は白タートルネックで、精一杯に着飾ってオペラ座へ。途中、麻薬捜査官を名乗る2人連れに呼び止められた。財布の中まで調べられたが、時間が迫っていたので、争はなかった。恵子は、この類の偽警官がいることを知っていたようだが、パスポートはホテルに置いてきたし、現金は数十ユーロしか持ち合わせていなかったもので、被害はなし。

リングでオペラ座前で降りる。正面横から入って案内人に切符を見せて席の位置を教えてもらう。2階のボックス席 No.3に入ると、オーケストラボックスが真近に見える。天井や内部の装飾は絢爛豪華。隣のボックスに日本人がいて、なんと上福岡市の尚美学園大学の卒業旅行とのこと。感心していると、客が入ってきて係員が席が違うと言う。右側の No.3に入ったが、左側が正しかったようで恐縮しながら移動。切符に Parterre Loge Links とあるのを理解できなかった失敗。

プログラムを買って(4E)、あらすじを確認。アイーダは一昨年、北京で公演ポスターをよく見かけたし、象やラクダまで出演させる大舞台で評判になったが、筋書きは細かくは知らなかった。舞台が始まると、手すりに埋め込まれている引き起こし型の小型液晶ディスプレイに、ドイツ語と英語の歌詞が表示される。

テーマが異なるから比較は出来ないが、数年まえパリオペラ座で見たカルメンよりも、重厚感のある舞台だ。特に、アイダ役のプリマの声は素晴らしい。Hui He という名前だから中国系の歌手だろう。小柄丸顔で太っているから、体型としては役にピッタリというわけではないが、アリアの良さは際立っていた。カーテンコールの拍手も多い。ラマダス役の男性も上手い。オペラ座での桂冠デビューとのこと。

幕間にはロビーで、白ワイン (@3.2E) を楽しむ。日本人も多く見かける。内部を少し見て歩くが、パリオペラ座よりも豪華な出来具合だ。ボックス席なので、クロークにコートを預ける手間はなく、終演後はそのまま外に出られる。スキー旅行途中の服装ではと気にしたが、観客はほどほどの服装で、着飾った人達はさほど多くなかった。@157E の経験はなかなか楽しかった。

夕食は、ホテル近くの Witwe Bolte。気楽なレストランで、スープ、生ベーコンとレバーペースト、Reschinken (牛ハム)、カツレツ、赤白ワイン (65E)。生ベーコンは塊とナイフを木皿に乗せてくる。これがとても美味だった。ドイツ語を聞きそこなって押し売りされた、付け出しのようなものだが、店が奨めるだけのことはあった。カツレツは、大切れ2つで、硬め。肉質にもよるだろうが、揚げ方を日本のトンカツに学ぶべきだ。あやしげなドイツ語の注文で、赤ワインも500ml飲んでしまい、少々飲みすぎたが、ウイーン最後の晚餐は上出来。

## 2・28

ゆっくり朝食。9時、チェックアウトして、U3で、中央駅へ。S7に乗り換えて空港へ。免税店で、ロゼワイン Schilcher を購入 (@13E)。SK694は、2時間でコペンハーゲン着。

乗り換えチェックインしてから、ワイン免税分の払い戻しを受ける。一旦、到着口の税関で認証してもらってから、再度出発口から入って、リファンド窓口で10Eもらう。いささか手間がかかる。免税店で、ノルウエーキャビアとソーセージを購入。SK983は、消防車のような自動車で機体の雪を洗い流す作業をしてから離陸。

ワインのサービスのあと、食事。サーモンサラダ、肉団子だが、けっこう美味しい機内食だ。

## 3・1

ほぼ定刻、10:30に成田着。まだ梅が咲いている風景を眺めながら、2時過ぎ帰宅。オーストリア・スキーの旅、無事終了。